

2024 年度

帝京大学ちば総合医療センター

歯科医師臨床研修単独型プログラム

## 研修歯科医募集要項(歯科口腔外科)

募集人員 1名

募集方法 マッチング方法

応募資格 2023 年度施行の歯科医師国家試験合格見込みの者及び歯科医師免許取得者

研修期間 2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日 (1 年間)※

【注意】2025 年 3 月 31 日までの 1 年間を法定研修とし、修了認定は 1 年目の終了時に判定する。2 年目以降(2025 年 4 月 1 日～)の研修を希望される場合、シニアレジデント枠に空きがあり、研修継続可能と判断されれば、歯科口腔外科のアドバンスコースとして引き続いて研修を行なうことが出来る。

待遇

【身分】 常勤

【給与】 月 240,000 円

2025 年 3 月 31 日までの法定研修期間のみ支給する。

2 年目以降シニアレジデントに採用の場合、当院規程のシニアレジデント給与を支給する。

【勤務時間】 平日 8:30～17:00(休憩時間 1 時間)、土曜日 8:30～12:30

1 週 40 時間 時間外勤務無し

当直なし

【宿舎】 有

【研修歯科医室】 有(医科と共用)

【休 暇】 日曜日・祝祭日・創立記念日(6 月 29 日)

他に土曜日指定休 2 日

年末年始休暇(12 月 29 日～1 月 3 日)

特別有給休暇(慶弔等)

年次有給休暇:年 10 日

【社会保険】 公的医療保険・公的年金保険

: 日本私立学校振興・共済事業団(健康保険・年金)・労働者災害補償保険

【健康管理】年2回の健康診断を実施

麻疹、風疹、水痘、ムンプス、インフルエンザ等の予防接種

【歯科医師賠償責任保険】

医師賠償責任保険 病院として団体保険加入

日本口腔外科学会歯科医師賠償責任保険の個人による任意加入

【病院外での研修活動】学会等の参加・費用:参加あり・演者のみ支給あり

選考方法 書類審査、小論文、面接、YG適性検査

提出書類

- (1) 臨床研修願書(本院指定の書式を使用、最近3ヵ月以内の顔写真を貼付)
- (2) 卒業(見込)証明書
- (3) 成績証明書
- (4) 推薦書(学部長又は学長による推薦で病院長宛、様式不問)
- (5) 健康診断書(本院指定の書式を使用)

※(1)、(5)についてはホームページから書式をダウンロードできます

歯科医師研修プログラム責任者：花上 伸明

申込み・問合せ先 帝京大学ちば総合医療センター総務課

〒299-0111 千葉県市原市姉崎 3426-3

TEL: 0436-62-1211(内線 2332)

## 2024 年度研修要領(歯科口腔外科)

### 【研修プログラムの特色】

当科は、病院歯科口腔外科であるため、歯科単科の大学病院と比較し、圧倒的に多種多様な症例を経験することができる。超高齢社会の日本において、基礎疾患をもつ患者の診療は必須であり、日々アップデートされる疾患の知識、治療法やガイドラインなど実際の診療を通じて知識を得ることができる。また、関連性のある口腔粘膜疾患、悪性疾患、睡眠時無呼吸、摂食嚥下障害や薬剤関連骨壊死などは、院内他科との連携を図り治療できることも病院歯科口腔外科での特徴である。

### 【研修目標】

研修を通じ、プロフェッショナルリズム、医学的研究の立案と思考の育成やコメディカルの役割の理解とその連携を身につけることを目標とし、研修修了後には、歯科口腔外科に在籍し、日本口腔外科学会をはじめとする多くの学会認定医・専門医を目指すことが可能である。

### 【研修期間】

2024 年 4 月 1 日 ~ 2025 年 3 月 31 日 (1 年間) ※

【注意】2025 年 3 月 31 日までの 1 年間で法定研修とし、修了認定は 1 年目の終了時に判定する。2 年目以降(2025 年 4 月 1 日~)の研修を希望される場合、シニアレジデント枠に空きがあり、研修継続可能と判断されれば、歯科口腔外科のアドバンスコースとして引き続いて研修を行なうことが出来る。

基礎研修    1 ヶ月

### 【基礎研修】

研修開始前に研修歯科医としての心構え、病院の診療体制と管理体制の把握、中央診療補助部と事務部の紹介などを含め、研修歯科医としての必要な知識習得を目的に実施される。：詳細は別項参照のこと

### 【歯科口腔外科における研修】

常勤指導歯科医が主に指導歯科医となる。また、全身麻酔下での手術では常勤指導歯科医のほかに非常勤歯科講師が指導を行う。研修は研修歯科医到達目標(A、B)および基本的診療業務(C)をもとに研修を行なう。：詳細は別項参照のこと

#### 1) 外来における研修内容

- ・1 名の研修歯科医に対し指導歯科医 1 名が指導にあたる。
- ・治療計画の立案や治療における手技などにつき指導を受ける。
- ・専門外来では日本口腔外科学会専門医資格を有する指導歯科医の指導を受ける。

## 2) 病棟における研修内容

- ・入院患者の副担当医となり、全身的な管理やマネージメントを身に付ける。
- ・手術では助手として参加し、一般的清潔操作や手術手技などの指導を受ける。
- ・週 1 回のカンファレンスでは担当症例の経過を報告し、今後の方針などのディスカッションに参加する。

## 3) その他

- ・医局内における研究発表会にて症例報告、研究報告を行い、今後、学会活動を行うことができるよう学術的な能力を身に付ける。

# 研修歯科医到達目標

## 【概要】

個々の歯科医師が患者や家族の立場に立った歯科医療を実践できるように、基本的な歯科治療に必要な臨床能力を身に付ける。また超高齢社会のニーズにあった地域包括医療、有病者の歯科治療やその知識を身につける

## A 歯科医師としての 基本的価値観

### 1 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

### 2 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

### 3 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

### 4 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

## B 資質・能力

### 1 医学・医療における 倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

## 2 歯科医療の質と安全の管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。
- ⑤ 医療従事者の健康管理(予防接種や針刺し事故への対応を含む)を理解し、自らの健康管理に努める。

## 3 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを得て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。
- ④ 高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。

## 4 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 診療・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
- ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

## 5 コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、わかりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

## 6 チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる 全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。
- ② 多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ③ 医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。

## 7 社会における歯科医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し地域社会に貢献する。

- ① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。
- ③ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ④ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

## 8 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点に対応する能力を身に付ける。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解する。

## 9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向(薬剤耐性菌等を含む)を把握する。



## C. 基本的診療業務

### 1 基本的診療能力等

#### (1) 基本的診察・検査・診断・診療計画

- ① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。
- ② 全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。
- ③ 診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。
- ④ 病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。
- ⑤ 診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。
- ⑥ 必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。

#### (2) 基本的臨床技能等

- ① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。
- ② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。
  - a 歯の硬組織疾患
  - b 歯髄疾患
  - c 歯周病
  - d 口腔外科疾患
  - e 歯質と歯の欠損
  - f 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下
- ③ 基本的な応急処置を実践する。
- ④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。
- ⑤ 診療に関する記録や文書(診療録、処方せん、歯科技工指示書等)を作成する。
- ⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。

#### (3) 患者管理

- ① 歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。
- ② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。
- ③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。

- ④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。
- ⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。

(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供

- ① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。
- ② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。

2 歯科医療に関連する連携と制度の理解等

(1) 歯科専門職の連携

- ① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。
- ② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。
- ③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。

(2) 多職種連携、地域医療

- ① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。
- ② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。
- ③ がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種による チーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。
- ④ 歯科専門職が関与する 多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム 等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。

(3) 地域保健

- ① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。
- ② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。

#### (4) 歯科医療提供に関連する制度の理解

- ① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。
- ② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。
- ③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

### 3 その他

#### BLS provider の取得

帝京大学ちば総合医療センターでは American Heart Association(AHA) 認定のコースを院内で開催している。研修歯科医は当コースを受講し BLS Provider カードを取得する。基礎研修日程の詳細は別項参照のこと

#### 【評価】

各項目の評価は自己評価および指導歯科医による評価をうける。

評価の記載方法	
A	問題なくできる (研修歯科医が単独で実施できる)
B	できる (指導歯科医の助言の下で実施できる)
C	なんとかできる (指導歯科医のサポートで部分的に実施できる)
D	できない (実施できない)

経験が必要な項目は症例数または回数を記載する。参加型の研修以外で経験できなかった項目については、レポート提出または口頭試問を必要とする。

#### 研修歯科医の指導体制

指導歯科医の直接の指導が中心となるが、指導歯科医の指導監督の下、上級歯科医による屋根瓦方式の指導もある

#### 修了判定の評価基準

##### 1. 修了判定を行う項目

必要症例数の達成

レポート

口頭試問

## 2. 修了判定を行う基準

必要症例数が達成されていること

レポートの評価が3段階でB以上であること。

口頭試問で7割以上答えられていること。

1. 基本的診療能力

(1) 基本的診察・検査・診断・診療計画

以下①から⑥までを一連で20例

① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
心理的背景に考慮した医療面接ができる				
社会的背景に考慮した医療面接ができる				

② 全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
全身状態の考慮ができる				
顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈できる				

③ 診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
適切な検査を選択できる				
検査結果を解釈することができる				

④ 病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
患者の主訴を聴取できる				
患者の現病歴を聴取できる				
患者の既往歴、家族歴を聴取できる				
診察所見を記録できる				
検査所見を記録できる				
歯科疾患の診断ができる				

⑤ 診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
患者の状況・状態を考慮できる				
一口腔単位の診療計画を立案できる				

⑥ 必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
患者に現症を説明できる				
患者に原因を説明できる				
患者に治療の必要性を説明できる				
わかりやすい言葉で説明ができる				
患者及び家族の意思決定を確認する				

(2) 基本的臨床技能等

① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する(10例)

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
適切なブラッシング方法が選択できる				
口腔衛生指導ができる				

② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する

a. 歯の硬組織疾患(各1例)

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
軟化象牙質の除去が出来る				
歯髄の覆とうができる				
インレーの単純窩洞が形成できる				
コンポジットレジン修復ができる				
インレーの複雑窩洞が形成できる				

b. 歯髄疾患(各1例)

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
天蓋の除去ができる				
根管口の明示ができる				
根管の拡大ができる				
根管長の測定ができる				
根尖穿通ができる				
貼薬薬剤の選択ができる				
根管貼薬ができる				
根管充填ができる				

c. 歯周病(各5例)

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
歯周基本検査ができる				
歯周基本検査を評価できる				
スケーリングができる				
SRP ができる				
歯周疾患の再評価ができる				

d. 口腔外科疾患(各10例)

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
浸潤麻酔ができる				
下顎孔伝達麻酔ができる				
鉗子抜歯が出来る				
ヘーベル抜歯が出来る				
難抜歯ができる				

e. 歯質と歯の欠損(各1例)

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
FMC またはブリッジの設計ができる				
FMC またはブリッジの形成ができる				
FMC またはブリッジの印象採得・咬合採得ができる				
FMC またはブリッジのセットができる				
義歯の設計ができる				
前処置ができる				
義歯の印象採得ができる				
義歯の咬合採得ができる				
技工指示書が書ける				
義歯のセットができる				

f. 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下(各5例)

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
顎変形症患者の主訴が聴取できる				
顎変形症患者の現病歴が聴取できる				
顎変形症患者の既往・家族歴が聴取できる				
顎変形症の予測模型を作成できる				
バイトスプリントを作成できる				
摂食・嚥下外来に参画する				

③ 基本的な応急処置を実践する(1例)

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
局所麻酔ができる				
麻酔抜髄ができる				
膿瘍切開ができる				
NSAIDsを列挙できる		レポート課題		
がん性疼痛に対する治療立案ができる		レポート課題		
止血処置ができる				
軟組織損傷の縫合ができる				
歯牙脱臼の整復・固定ができる				
抗生剤を列挙できる		レポート課題		

④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する(各10例)

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
血圧を測定し、評価できる				
脈拍を測定し、評価できる				
経皮的血液酸素飽和度の評価ができる				
意識レベルの判定について説明できる		レポート課題		
術前患者の全身状態を把握する				
術後患者の全身状態を把握する				
全身麻酔症例の術後管理について説明できる				



⑤ 診療に関する記録や文書(診療録、処方せん、歯科技工指示書等)を作成する(各10例)

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
主訴を診療録に記録できる				
現病歴を記録できる				
全身所見を記録できる				
顔貌所見を記録できる				
口腔内所見を記録できる				
処方箋を記載できる				
歯科技工指示書を記載できる				

⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
歯科治療時に起こりうる偶発症を列挙できる		レポート課題		
診察中に起こりうるヒヤリ・ハットを列挙できる		口頭試問		
医療過誤について説明できる		口頭試問		

(3) 患者管理

① 歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する(各1例)

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
<以下の全身疾患を有する患者へ、 歯科治療上のリスクと注意点を説明できる>				
・糖尿病		レポート課題		
・高血圧症		レポート課題		
・脳血管障害		レポート課題		
・虚血性心疾患		レポート課題		
・喘息		レポート課題		
・心臓病(弁膜症)		レポート課題		

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
病歴聴取により服用薬の確認ができる				
<以下の服用薬で起こる歯科治療時の 有害事象と対応策を患者へ説明できる>				
・抗凝固薬		レポート課題		
・副腎皮質ステロイド薬		レポート課題		
・骨吸収抑制薬		レポート課題		
紹介状を記載し患者情報を共有できる				

② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する(5例)

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
患者の病歴を聴取できる				
主治医と必要な診療情報共有ができる				

③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う(5例)

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
患者の全身状態を把握できる				
歯科治療中のモニタリングができる				

④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
歯科診療時の偶発症を列挙できる		口頭試問		
偶発症に対する対応法を説明できる		口頭試問		

⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する(各10例)

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
血圧を測定し、評価できる				
脈拍を測定し、評価できる				
経皮的血液酸素飽和度の評価ができる				
意識レベルの判定について説明できる		レポート課題		
術前患者の全身状態を把握する				
術後患者の全身状態を把握する				
全身麻酔症例の術後管理について説明できる				

(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供

- ① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する(各1例)

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
乳幼児期				
学齢期				
成人期				
妊娠期				
高齢期				

- ② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する(各1例)

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
乳幼児期				
学齢期				
成人期				
妊娠期				
高齢期				

2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等

(1) 歯科専門職の連携

- ① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る
- ② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る
- ③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
歯科衛生士の役割と連携について説明できる		口頭試問		
歯科技工士の役割と連携について説明できる		口頭試問		
他職種連携、チーム医療を説明できる		口頭試問		
周術期口腔機能管理の意義を説明できる		口頭試問		
周術期口腔機能管理を主治医と連携し実践できる		口頭試問		

(2) 多職種連携、地域医療

① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。

② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
地域包括ケアシステムを説明できる		口頭試問		
地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明できる		口頭試問		

③ がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した

上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
多職種によるチーム医療に参加し、他科の疾患を理解できる		口頭試問		
周術期口腔機能管理の意義を説明できる		口頭試問		

④ 歯科専門職が関与する多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
院内のNSTラウンドに参加する		参加		
ソーシャルワーカーの役割を理解し説明できる		口頭試問		

(3) 地域保健

① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する

② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
保健・福祉関係機関、関係職種を列挙し、その役割を説明できる		口頭試問		
保健所における地域歯科保健活動を説明できる		口頭試問		

(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解

- ① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。
- ② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。
- ③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する

行動目標	月日	症例	自己評価	指導歯科医評価
介護保険制度について説明できる		口頭試問		
医療保険制度について説明できる		口頭試問		
適切な保険診療を実践できる				

症例数

到達目標に必要な症例数 合計 398 症例

# レポートテーマ

## 1. 応急処置

### ① 疼痛に対する基本的な治療を実践する

NSAIDs を列挙できる

がん性疼痛に対する治療立案ができる

使用頻度の高い抗生剤を列挙できる

### ② 修復物、補綴装置等の脱離と破損および不適合に対する適切な処置を実践する

補綴物脱離の原因を推察できる

不適合補綴物による弊害を説明できる

義歯破損の原因を推察できる

## 2. 救急医療

### ① バイタルサインを観察し、異常を評価する

意識レベルの判定について説明できる

### ② 服用役の歯科診療に関する作用機序、副作用を説明する

抗凝固薬

副腎皮質ステロイド

骨吸収抑制薬

### ③ 全身疾患の歯科診療上のリスクを説明する

糖尿病

高血圧症

脳血管障害

虚血性心疾患

喘息

心臓病(弁膜症)

### ④ 歯科診療時の全身的合併症への対処法を説明できる

アナフィラキシーショックの対処法を説明できる

脳貧血発作の対処法を説明できる

低血糖の対処法を説明できる

- ⑤ 二次救命処置の対処法を説明する
  - 気管切開の術式を説明できる
  - 救命処置に必要な薬剤を列挙できる
  
- 3. 医療管理・地域医療
  - ① 院内感染対策(Standard precaution を含む)を説明する
    - Standard Precaution を説明できる
    - MRSA について説明できる
    - 多剤耐性緑膿菌について説明できる
  - ② 医療事故を説明する
    - 歯科治療時に起こりうる偶発症を列挙できる
    - 診察中に起こりうるヒヤリ・ハットを列挙できる
  
- 4. 医療知識の習得
  - ① EBM (Evidence Based Medicine) を説明する
    - 喫煙と歯周病の EBM について説明できる
    - 誤嚥性肺炎と口腔ケアの EBM について説明できる
  - ② 適切な放射線管理、感染管理を実践する
    - 放射線被曝のリスクについて説明できる
  
  
- 上記テーマについて発展性のあるレポートを作成し、期日までに提出すること
- 参考文献、書籍の出展を明記、インターネット使用の際はアドレスを併記すること
- 提出期限 2025 年 3 月中

